

第2次四国西予ジオパーク推進計画概要版(案)

■推進計画策定の目的

本推進計画は、私たちの足元の大地の成り立ちや大地が育んだ多様な生態系、そこで暮らす人々の営みを知るジオパークの活動を通じて、地球と人間との関わりを理解し、持続可能な社会の構築につなげることを目的としている。

地域の魅力を再発見し、地域に対する郷土愛を育むとともに各産業に発展・波及させるために、地域遺産を地域住民及び行政、民間団体、調査・研究機関等が協働で保全し、研究や教育への活用と、魅力的なジオツーリズムを推進する。

ジオパークを活用し、 持続可能な地域社会を実現

■背景

西予市は、平成25年9月24日に日本ジオパーク委員会から市内全域が「四国西予ジオパーク」として日本ジオパークネットワークへの加盟が認められた。また、認定後4年目を迎えた平成29年11月には審査(現地審査)が行われ、同年12月22日に四国西予ジオパークとして初めての再認定となった。

今後、地域の貴重な自然や文化を学び、地球と人とのつながりを知り、地域の地形や地質・生態系・文化を保全することで持続可能な社会づくりを目指す。

■計画期間

本計画書による計画期間は計画策定日から令和3年度(2021)までとする。

■取り組むべき施策とその展開

1. 四国西予ジオパークのテーマ

①ジオストーリーの構築と共有

⇒テーマを軸としたジオストーリーを市民や専門家と連携して構築し、ガイドや市民と共有を図る。

②市民に向けた将来像の発信

⇒四国西予ジオパークが目指す将来像を市民に分かりやすく解説し、ジオパーク活動の理解を深める。

2. 保全と整備

①サイトの指定

⇒「四国西予ジオパークにおけるサイト等の定義ならびにその指定等に関する作業指針」を見直し、情報の整理を行い、ジオ(地質・地形)サイト、自然(生態系)サイト、文化サイトを中心として新たに指定する。

②サイトに関する保全・活用リストの作成

⇒各サイトの基本情報を整理したうえで、サイト等の保全や活用を進めるためのリストを作成する。

③サイトの維持管理

⇒市民や地域組織、ジオガイド団体等と連携して各サイトの適切な維持管理に努め地質遺産の保全を図る。

④来訪者への安全対策

⇒緊急性や危険性をまとめた安全対策ガイドラインを作成し、ジオサイトの整備・補修を行い、誰もが安心・安全に見学できる環境整備を進めるとともにガイド等への防災研修を強化する。

⑤拠点施設の整備

⇒体験や遊びを通して、楽しみながら自然科学やジオパークについて学ぶことができる博物館的な機能と、市民と来訪者が集い、交流し、市内のサイトや関連施設に送り出すことを目的とした四国西予ジオミュージアム(仮称)を新たに建設する。

⑥ビジターセンター機能の充実

⇒四国西予ジオパークのビジターセンターとして位置付けている「道の駅どんぶり館」の機能の充実を図る。

⑦誘導・解説用看板の整備

⇒四国西予ジオパーク内に、誘導や解説用看板を体系的に整備することを目的として策定したブランディング戦略やサイン計画に基づき、計画的に看板類の整備を図る。

3. ジオパークを活かした持続可能な地域振興

①せいの地域づくり交付金を活用したジオパーク活動

⇒ジオサイトを活用した住民主体による地域づくりへの取組みを推進し、他地域との交流促進を図る。

②地域の文化や文化遺産、技術継承への支援

⇒地域づくり組織等と連携し、ジオとのつながりのある文化遺産や伝統技術の継承を図る。

③ジオパーク活動に主体的に取り組む市民層の拡大

⇒ジオパーク活動を通じて経済的・精神的満足度が高まり、生きがいを感じることができる市民を増加させる。また、多様な参加者による自由な経済活動への支援を行う。

④ジオ認定ブランド「四国西予ジオの至宝」の推進

⇒関係部署と連携して、四国西予ジオパークに関わるジオストーリーを語るができる産品をジオブランドとして認証する「四国西予ジオの至宝」制度をさらに充実させる。

⑤ロゴマークの活用

⇒ロゴマークの使用方法や活用例を広く周知することで四国西予ジオパークロゴマークの各種媒体や関連農産品への使用を促し普及に努める。

4. 持続可能なジオツーリズムの創出と推進

①市内事業者や組織等と連携した多様性を感じられるジオツアー

⇒市内事業者や組織・団体、ジオガイド等と連携することにより、地質・地形や、生態系、文化、人々の暮らしといった四国西予ジオパークならではの多様性を感じられる魅力的なジオツアーを展開する。

②ジオガイドの養成

⇒継続したジオガイドの養成によりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。

③国際交流、インバウンドへの対応

⇒海外のジオパークや留学生等との交流を進めながら、国際化に対応し外国人も楽しめるジオツアーへの環境整備を進める。

④交通網の充実と利便性の向上

⇒公共交通機関や民間業者等との連携強化を図り、エリア内を巡る交通手段の強化や利便性の向上を図る。

5. 学習・教育活動への活用

①市民へのジオパーク学習

⇒地域や団体・組織のニーズに合わせて出前学習や意見交換等を行うとともに、ジオサイトや地域の無形文化遺産等を活用した市民向けのジオツアーや学習会を行うことによって、ジオパークに関する幅広い知識を学ぶ学習機会の創出を図る。

②児童生徒へのジオパーク学習

⇒教育部局等と連携し市内教育現場での出前授業や野外学習、食育を継続して行うことで、四国西予ジオパークを通じた地域学習や自然科学・人文科学等への学びを促進する。

③ジオパーク学習資料の活用

⇒市内におけるジオパーク学習を促進するために、出前授業や野外学習において活用することができる統一した資料を作成しその活用を推進する。

④児童生徒向けのガイドツアー

⇒学校教育に特化したパンフレットや発達段階に応じた説明ができるガイドの育成などにより、学校が取り組みやすい環境を整えてガイドツアーを増加させる。

6. 防災・減災への取り組み

①ジオパークエリアで起きた自然災害情報の提供

⇒平成30年7月豪雨災害を風化させないために、災害経験を伝えることができる方策やサイトの活用等を検討し、市民や観光客がより理解を深めることができるような形で情報提供を行う。

②防災・減災教育の強化に向けての他機関との連携

⇒防災部局や教育部局など、市役所内部との連携や、大学などの研究機関、博物館、NPOなどと連携し、防災・減災教育を強化する。

③ジオと向き合った防災・減災教育の推進

⇒自分たちの住む地域の地質・地形の特性等を学び、自然災害のおそろしさだけでなく、自然から享受している恩恵についても学ぶ「ジオと向き合った防災・減災教育」を推進する。

7. 四国西予ジオパークでの調査・研究活動の推進

①各サイトの価値を高めるための調査・研究活動の推進

⇒四国西予ジオパークの各サイトで、大地と生態系、人の暮らしとの関連性を科学的に明らかにすることは、その場所の価値を高めることにつながる。そのため、研究者等による調査・研究活動を推進する。

②ジオパーク内での調査・研究活動に対する支援の強化

⇒四国西予ジオパーク内での研究者等による調査・研究活動を支援し、ジオミュージアムやジオ関連施設において研究成果や情報の集積を進める。

8. ジオパークを活かした健康・スポーツの推進

①ジオの魅力を活かしたウォーキングの推進

⇒市内の多様なジオサイトを楽しむことができるウォーキングやノルディックウォーク等のコースの拡充を行い、市民の健康増進と四国西予ジオパークの普及啓発を図る。

②ジオの魅力を活かしたサイクリングの推進

⇒四国西予ジオパークの魅力を活かしたサイクリングコースを整備し、ジオパークを楽しめるサイクリングの普及促進を図る。

②ジオの魅力を活かしたその他アウトドアスポーツの推進

⇒四国西予ジオパークの魅力を活かしたトレイルランニング、SUPなどの活動を支援し、ジオを絡めたアウトドアスポーツの普及促進を図る。

7. その他

①ジオガイドネットワーク及び地域ガイド組織への活動支援

⇒四国西予ジオガイドネットワークの活動と地域ガイド組織の活動を支援し、ガイド同士の交流促進、ガイドスキルの向上を図る。

②JGNやブロック地域と連携した活動の推進

⇒JGN内での連携プログラムの推進や、中四国近畿ブロックと連携した活動を行い、他地域における先駆的・効果的な活動を学びながら、ジオパーク活動の質の向上やネットワーク間の連携強化に努める。

③海外のジオパーク等との交流・連携

⇒認定前から愛媛大学の支援で交流をつづけているインドネシアのゴロンタロ州をはじめとする海外の地域と連携を図る。

④推進協議会体制の強化

⇒四国西予ジオパーク推進協議会内の各団体同士の情報交換や連携事業等を推進し、市民が主体となったジオパーク活動の充実を図る。

⑤効果的な広報活動の戦略的展開

⇒対象を絞り、いかにジオパークの魅力を伝えるかを定めることで効果的な広報活動を実現し、メディアや各種媒体に戦略的なPRを進める。

⑥四国西予ジオミュージックプロジェクトの展開

⇒音楽とジオパークの融合というこれまでにない取り組みによって四国西予ジオパークのさらなる魅力を創造し、新たな観光客層の取り込みによる交流人口の拡大及び地域資源の磨き上げ、並びに四国西予ジオパークの知名度・認知度の向上に繋げる。

令和2年2月17日